

一石二鳥

いっせきにちょう

石を一つ投げて二羽の鳥をとらえること。ひとつのことをして、2つの利益を得ること。



二階から目薬

にかいからめぐすり

ものごとがうまく運ばず、もどかしいこと。



三日坊主

みっかぼうず

あきっぽくて、長続きがしないこと。そういう人。

1日目



2日目



3日目



朝三暮四

ちょうさんぼし

目先のちがいに気を取られ、結局は同じことであることに気がつかないこと。また口先で人をだますこと。



五里霧中

ごりむちゅう

深い霧(きり)の中で方角がわからなくなってしまうこと。すっかり迷ってどうしてよいかわからなくなってしまうこと。

五里 = 約19.6km



三面六臂

さんめんろっぴ

いろいろなところですばらしい活躍をすること。または、一人で何人分もの活躍をすること。

臂：ひじ



八面六臂ともいう

七転び八起き

ななころびやおき

何回失敗しても、それに負けず、また勇気をしぼって立ち向かうこと。



八方塞がり

はっぽうふさがり

すべてによくない状況で、どうしようもないこと。



九死に一生を得る

きゅうしにいっしょうをえる

十のうち九まで死ぬと思われていた中で=ほとんど助かる見込みのない危険な状態から、かろうじて助かることのため。



9

一を聞いて十を知る

いちをきいてじゅうをしる

一部をきいただけで全部を理解できること。



10

一富士二鷹三茄子

いちふじにたかさんなすび

初夢に出ると縁起がいいと言われるもの。



11

二足の草鞋を履く

にそくのわらじをはく

(両立しえないような) 二つの職業を同一人が兼ねること。



12

一日三秋

いちじつさんしゅう

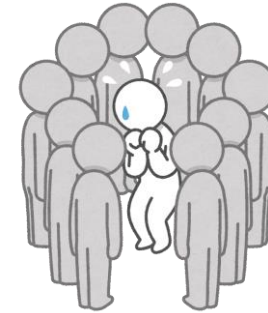
一日会わないだけで、三年も過ぎ去ったような気がする、それほどに相手に対する愛情が強いことのたとえ。



四面楚歌

しめんそか

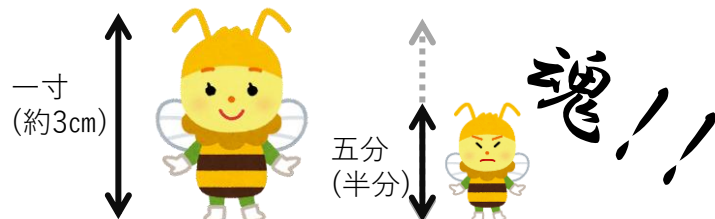
助けがなく、まわりが敵ばかりであること。



一寸の虫にも五分の魂

いっすんのむしにもごぶのたましい

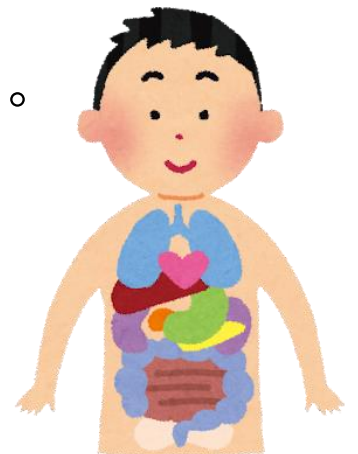
小さく弱い者にも、それ相当の意地や根性があるのだから、どんな相手でもばかにしてはいけないということ。



五臓六腑に染み渡る

ごぞうろっぷにしみわたる

体全体で深く感じること。



親の光は七光

おやのひかりはななひかり

親の地位や名声が高いと、子はそのおかげを受けることが大きいということ。



桃栗三年柿八年

ももくりさんねんかきはちねん

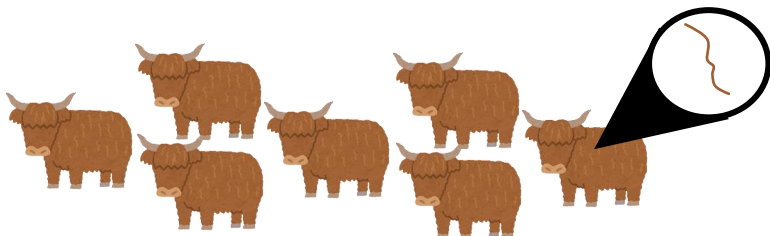
何ごとにも成果が出るまでにある程度の年数がかかることのたとえ。



九牛の一毛

きゅうぎゅうのいちもう

たくさんのうち、とても少ないこと。
また、比較にならないほどつまらないこと。



瓜二つ

うりふたつ

顔かたちが見分けがつかないほどよく似ていることのたとえ。



二兎を追う者は 一兎をも得ず

にとをおうものはいっともえず

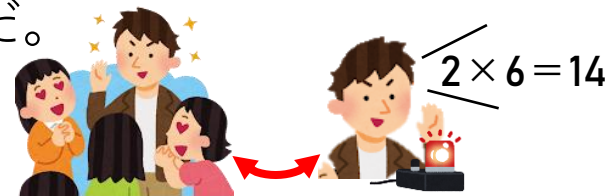
二つのものごとを欲ばると、どちらも失敗したり、中途半端に終わったりするものであることのたとえ。



天は二物を与えず

てんはにぶつをあたえず

天は一人の人間にいくつもの才能を与えることはない。また、ひとつの才能に秀でている者は、たいてい他に欠点があるものだ。



早起きは三文の徳

はやおきはさんもんのとく

朝早く起きると、なにかしらよいことがあるということ。



四海兄弟

しかいけいてい

世界じゅうの人々はすべて兄弟のように親しくし、愛し合うべきであるということ。

